

# 海の環境教育 実践者研修会

石見の海、私たちの海の持続性

2017年3月1日

しまね海洋館学習交流係 山口慶子



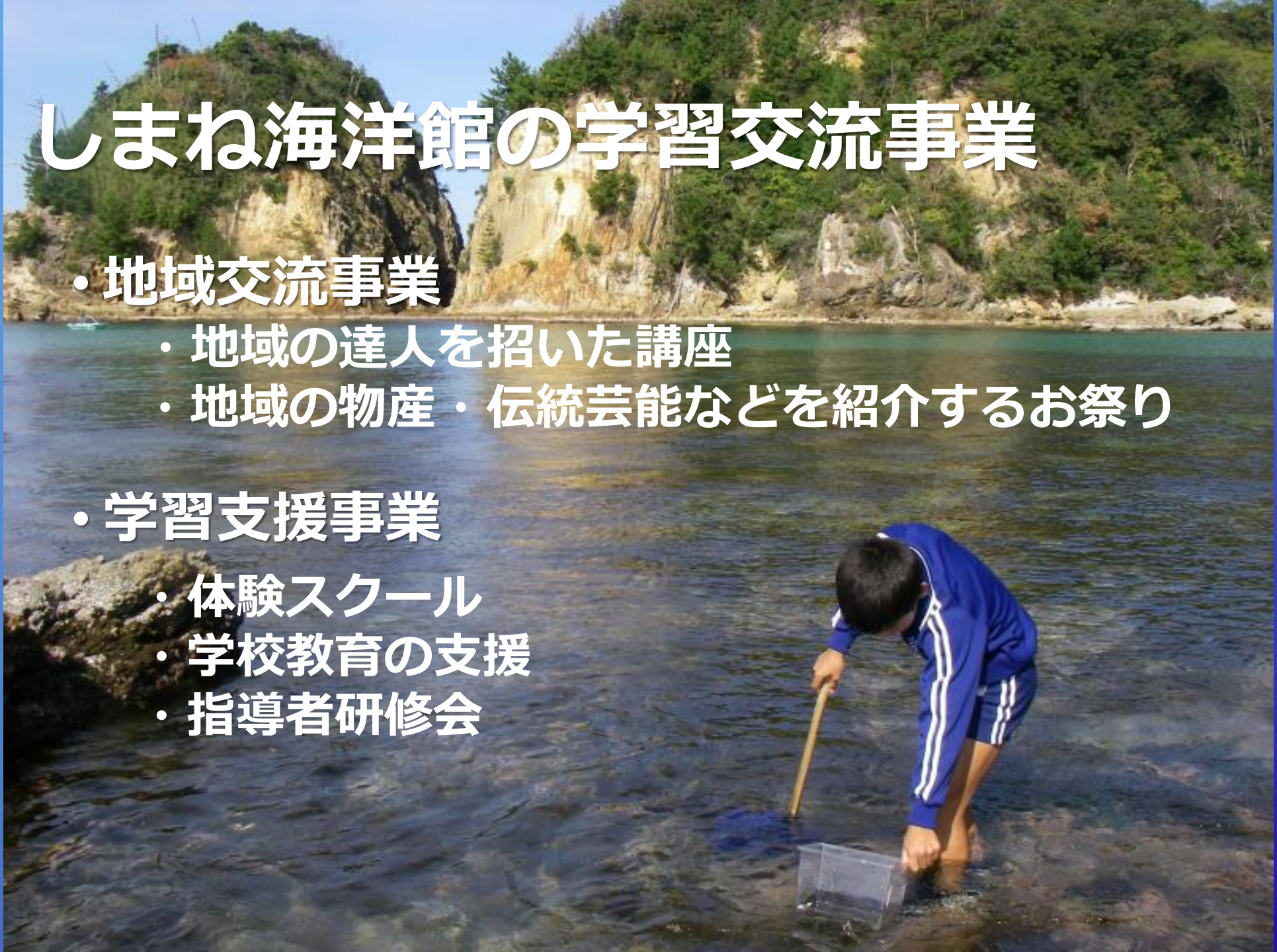
# しまね海洋館の学習交流事業

- ・地域交流事業

- ・地域の達人を招いた講座
- ・地域の物産・伝統芸能などを紹介するお祭り

- ・学習支援事業

- ・体験スクール
- ・学校教育の支援
- ・指導者研修会



# 指導者研修会

- 当館スタッフのスキルアップも含め、地域の環境教育の実践者をふやすとともに、実践者どうしのつながりをつくる

- 実践していく場の確保

第3回研修会では「アクアスわくわくエコフェスタ」において実践できるような具体的なプログラム作りをし、翌週のフェスタにブース出展をして体験プログラムを実践した。

(対象 ; アクアス来館者      プログラム提供方法 ; 立ち寄り型)





# 指導者研修会

## 課題

- ・ 実践数が増えていない
- ・ 継続性のある実践の場の確保
  - 教員、社会教育施設職員など、実践の場のある人をもっと巻き込むか？
- ・ 地域で行う環境教育において、とりあげられるべき地域の課題を共通の認識として持っておくことが必要

# 浜田地域と世界の持続可能性を高める教育/地域づくり活動のご提案～アクアスを活用して～

## アクアスと浜田の地域づくりの課題

乱開発や環境汚染等により日本および世界の海洋資源が減少している中、浜田漁港、江津漁港を拠点とした水産業を持続的に発展させたい。

少子高齢化、過疎化が進む中、生まれ育った地域に愛着と誇りを持ち、かつグローバルな視野を持って地域社会の持続的発展に参加、参画しつづける人を育てたい。

地元の学校での教育活動に、アクアスの持つ資源（施設、人、教育プログラム等）を活用してほしい。

海や水産資源の持続発展に寄与したい、寄与できる人を育てたいと考える人たちが、学んだことを社会で実践し、その輪を広げていくしくみがほしい。

## 提案内容

### 1. 提案事業名

#### 海・川とともに生きるふるさとづくりプロジェクト

### 2. 目的

石見地域で海・川と地域の持続可能性を高めることができる人を育てる。

### 3. 対象

浜田・江津地域の教育関係者、環境保全関係者、水産関係者、NPO、アクアス

### 4. 提案のねらいと考え方

- 学びと実践をつなぐ教材やプログラムづくりの基本を身につけた人を様々な現場に増やす。
- 研修を受けた人が実践できるしくみをつくる。
- 海や地域に関わる多様な人が出会い、未来について話し合う場をつくることで生まれる機運を大切にする。

### 5. 提案内容

- ① 多様な人が参加する実行委員会を設ける。
- ② 実行委員会の中のワーキングチームが中心となって、海を題材にした教育パッケージ「MARE」に学ぶ研修会を開催する。
- ③ ②で学んだ参加者が実践するモデル授業づくりを支援する。
- ④ ②の参加者の各実践を報告する機会を設ける。
- ⑤ 振り返りと評価を行い、次年度につなげる。

### 6. 期待される効果

- 多様な人たちが関わりあい情報交換する関係性が生まれる
- 多様な人たちで、持続可能な地域づくりの共通のビジョンを描こうとする機運が生まれる。

## ご協力いただける組織・団体

### 実行委員会/ワーキングチーム 構成メンバー

- ・ 浜田市市民生活部環境課
- ・ 浜田市教育委員会
- ・ 江津市市民生活課
- ・ 江津市教育委員会
- ・ 江津市立郷田小学校
- ・ 県教委浜田教育事務所
- ・ 島根大学大学院教育研究科
- ・ 島根県水産技術センター
- ・ エコサボしまね
- ・ NPO 法人コアラッチ
- ・ 認定NPO 法人自然再生センター

### 実行委員会以外の協力者

- ・ 海の自然史研究所（MARE）
- ・ 地元の小学校

### 事務局

- ・ EPO ちゅうごく
- ・ アクアス（学習交流係）

① 2016年9月初旬  
第1回実行委員会  
開催（計画作成）

10月～11月  
ワーキングチーム  
で研修会の準備

②2017年1月中旬  
「MARE に学ぶふる  
さと学習の進め方」  
研修会開催

③1月  
モデル授業の実践  
（見学）

④2月  
実践報告会

⑤2月  
第2回実行委員会  
開催（振り返りと評  
価）





# ワーキンググループ参加メンバー

- しまね海洋館アクアス
  - 浜田市市民生活部環境課
  - しまね自然と環境財団 エコサポしまね
  - 島根県水産技術センター
- 
- 海の自然史研究所
  - EPOちゅうごく





# 研修会参加者の属性

- 自然系博物館
- 建設会社
- 市町村環境課
- 環境保全市民団体
- 地元ケーブルテレビ
- アクアススタッフ（教育事業担当者、飼育スタッフ）
- 県水産技術センター
- 地域ボランティア
- 教員
- 学生

# 研修第1日目（1月14日土曜日）

- 10:00     スタート、オリエンテーション  
              スライドショー「石見の自然」  
              プログラムオリエンテーション（目標、日程、心構えなど）
- 10:30     はじめまして！よろしく！
- 11:00     ESDの視点で考える「持続可能な石見の海」
- 13:20     「この先、海です」体験とお話
- 19:00     海的环境教育プログラムの作り方  
              1日目のセッション終了



目標	日程			心がまえ
理解する	セッション1 はじめまして！ よろしく！	セッション4 海の環境学習プログラムの 作り方	セッション7 ふりがえり わかちあい	主体的に かかわる
創造する	セッション2 ESDの視点で考える 持続可能な海の 見方	セッション5 石見の海に関する 学習プログラムを作る	2月の研修へ 続く！	お互いから 学び合う
つながる	セッション3 「の先海です！」 体験あそび	セッション6 学習プログラムの 完成に向けて		遊び心を 忘れない



# 研修第1日目（1月14日土曜日）

- 10:00 スタート、オリエンテーション  
スライドショー「石見の自然」  
プログラムオリエンテーション（目標、日程、心構えなど）
- 10:30 はじめまして！よろしく！
- 11:00 ESDの視点で考える「持続可能な石見の海」
- 13:20 「この先、海です」体験とお話
- 19:00 海的环境教育プログラムの作り方  
1日目のセッション終了



# 研修第1日目（1月14日土曜日）

岡山

津和野内海の  
おはあTônの差  
しみ方は?

世代間の  
公正

小中高が  
どのように連携したのか?  
(バト油)

地域の  
文脈

予算は?  
どのように使えるか?

参加した子供の  
親の反応は?

]-ディネートの方法  
や旅・連絡場

熱心な指導者  
の確保は  
どうしているのか?

学問間の  
橋渡しは  
どうしているのか?

具体的  
目標

クラブ化

多様な立場の  
人・組織の  
つながり

自根  
伴走  
支援

自分事化

自他  
参画

島根の事例の  
子ども参加者は  
いるのか?

ハッパウトンボ  
の写真も一度  
見せてほしい

ハッパウトンボを  
守る会の方との  
目的は?

高校生が  
小学生にどう教える?

対立  
対話

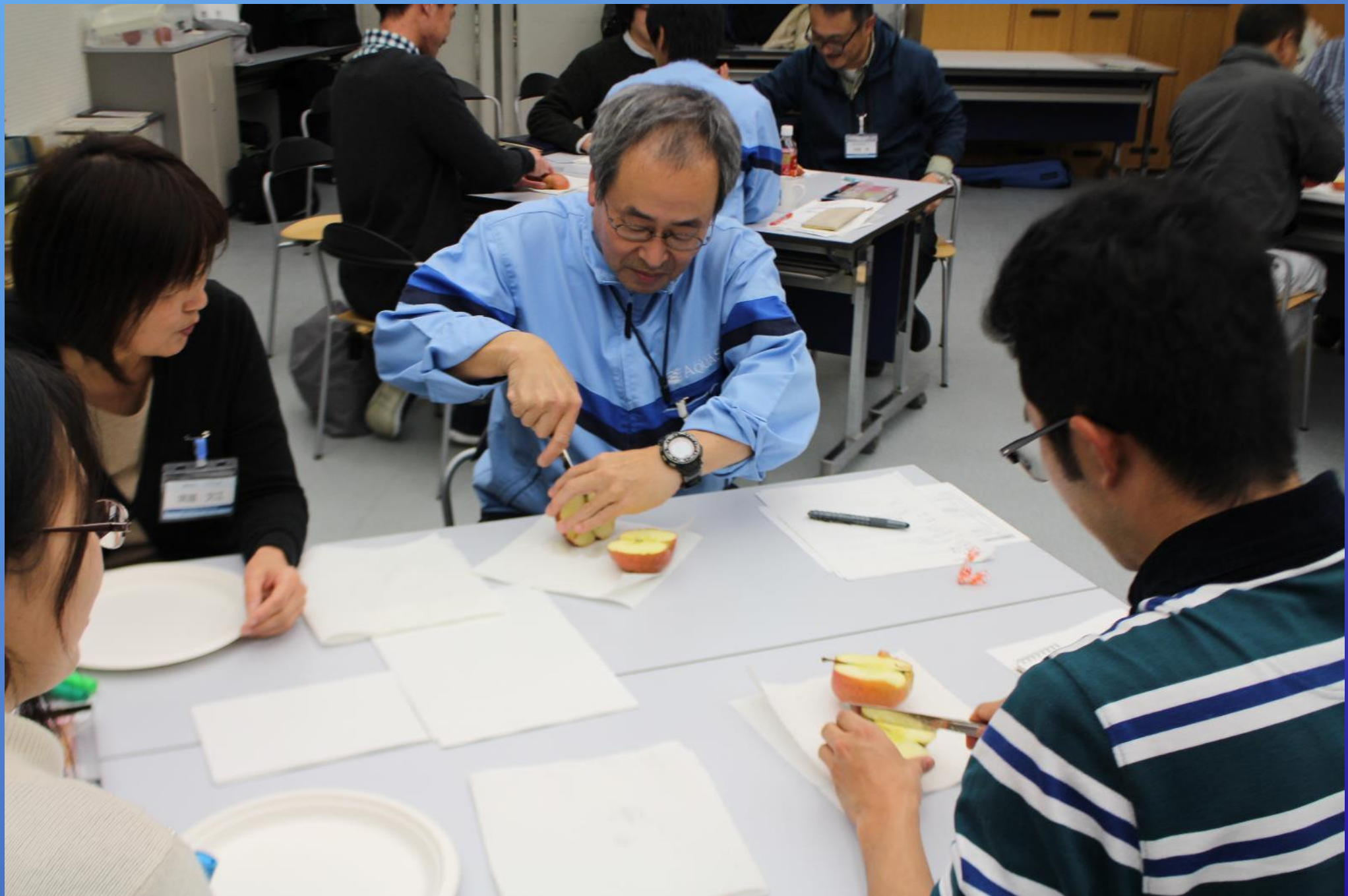
立場と協力

つかみ

# 研修第1日目（1月14日土曜日）

- 10:00 スタート、オリエンテーション  
スライドショー「石見の自然」  
プログラムオリエンテーション（目標、日程、心構えなど）
- 10:30 はじめまして！よろしく！
- 11:00 ESDの視点で考える「持続可能な石見の海」
- 13:20 「この先、海です」体験とお話
- 19:00 海的环境教育プログラムの作り方  
1日目のセッション終了





# 研修第1日目（1月14日土曜日）

- 10:00 スタート、オリエンテーション  
スライドショー「石見の自然」  
プログラムオリエンテーション（目標、日程、心構えなど）
- 10:30 はじめまして！よろしく！
- 11:00 ESDの視点で考える「持続可能な石見の海」
- 13:20 「この先、海です」体験とお話
- 19:00 海の環境教育プログラムの作り方  
1日目のセッション終了

…夜の時間ももちろんあります・・・

ESDで大切な  
3つのつながり

- ・プロセスから学ぶ
- ・地域 ↔ 世界
- ・過去 ↔ 未来

河野 宏樹

ロジャー・ハート  
「参画のほど」

8. 子ども主導の 活動が大人も巻きこ	参 画 の 役 階
7. 子ども主導の 活動	
6. 大人主導で 意思決定に 子どもも参画	
5. 大人主導で 子どもの意見提供 ある参画	
4. 与えられた役割の 内容と認識した上 での参画	非 参 画
3. 形式的 参画	
2. おかしり 参画	
1. 採り 参画	

例)  
子どもが市長に「質問  
を 質問は3つしかあてられぬという。

← 「たまたまいいか」  
意味が「おかしり参画」

← 子どもさ  
だまして



# 研修第2日目（1月15日 日曜日）

- 9:00      石見の海に関する学習プログラムを作ろう

石見の海が抱える問題を話し合い、中心的問題の絞り込み

学習課題の設定

プログラムデザイン、プロジェクトデザイン

各グループのプレゼン

- 15:00      今後の進め方について

2日目のセッション終了



# ESDプログラム チェックリスト

① テマに対する  
地域課題認定は  
適切か？

② 参加体験型の  
手法が  
生かされているか？

③ 学習者の  
主体的な学びが  
尊重されているか？

④ 継続的な  
学びの場があるか？

⑤ 学びの成果への  
橋渡しが  
できているか？

⑥ 多様な人や組織を  
巻き込む活動に  
なっているか？

⑦ 答えを準備せず  
新たな価値を創る  
プロセスがあるか？

⑧ 地域資源  
(人・モノ・文化...)  
が最大限生かされて  
いるか？

⑨ 楽しいと感じられる  
プログラムに  
なっているか？

⑩ 実現可能な  
プログラムに  
なっているか？

一本の樹

見方かき活用

和ワ  
モク

3回やって  
おれなくて  
本意は

AQUAS

AQUAS

# 企画の手順

Step 1  
5件の確認  
(5分)

Step 2  
問題の把握  
70 (75分)

10:25まで

Step 3  
学習課題設定  
(30分)

抽出  
統合

Step 4  
プロジェクト企画  
(120分)

関所  
11:30 ~ 12:00

Step 5  
企画発表と  
自己チェック  
(60分)

14:00  
スタート!

13:45まで  
ワークシート提出

Listen (聴く)  
Open (心を開く)  
Voice (声を出す)  
Enjoy (楽しむ)

石見のこ  
~2016~







いかに大事にでもエタニを愛する子のも大切

→ 外から来た人の提案だからでは本質が見えないことある

→ 1回外に出ると言っている部分がある

→ ずと住んでいると気づかない

伝え方が正しくないと聞かずにいなくなる

→ 人が伝えている

→ 海の大切さを知っている

→ 自然の恵みを知り、自分たちが見守るべきもの

→ 何が持続不可能か

# 海の硯

漁獲量

石の減少

→ 海を身近に感じられる  
ことカビリアンなため、

人間の適切な介入

持続

魚はなれ  
子供の水遊び  
文化の継承  
自然に対する興味(親)

生活様式  
情報発信  
まろい

→ 17年整備の遅れ、教育の質の問題、自然環境の悪化

→ 漁師の減少、商業漁業の衰退

→ 自然利用の場としての減少

→ 天然資源の散逸

→ 放牧・山林利用

→ 地域住民の意識

→ 人口減少

→ 水(配水、水)に無関心

→ 各種産業の衰退、持続性不足

→ 若者の定住、若者の減少

→ 地域住民の意識

→ 河川の減少(荒れ)・減少

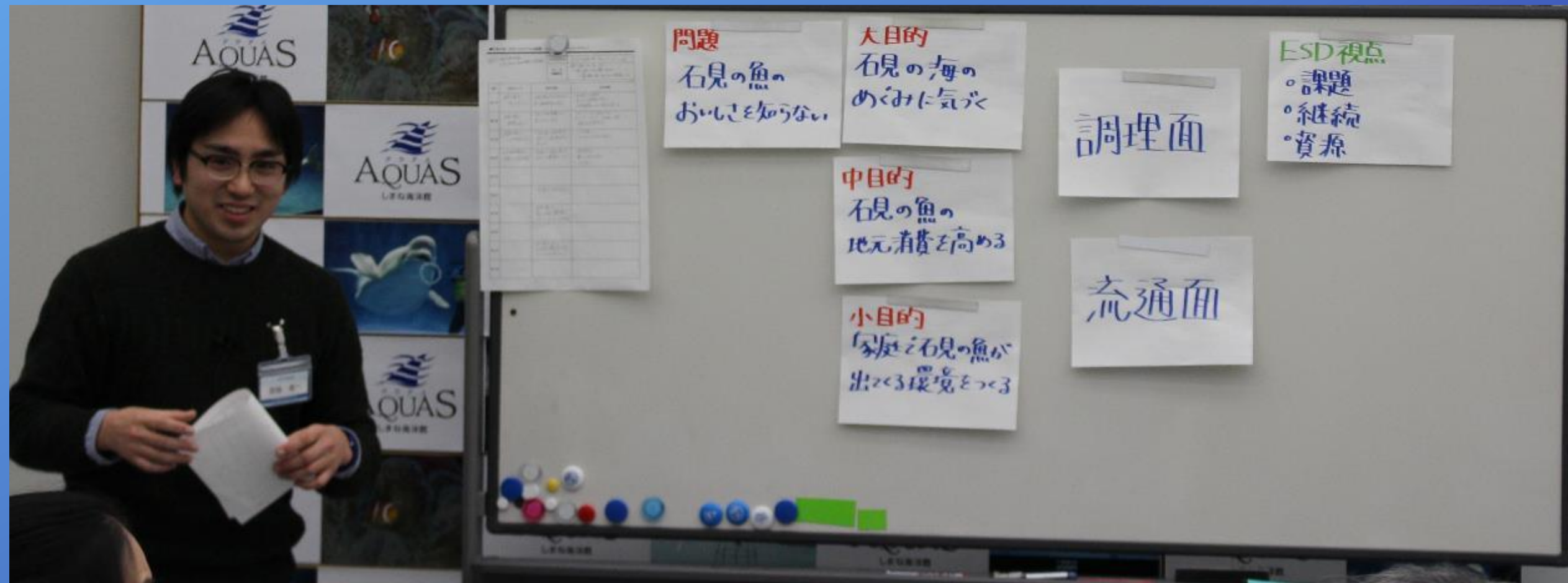
# 研修第3日目（2月12日曜日）

- 10:00 石見の海に関する学習プログラムを作ろう  
(プロジェクトデザイン)  
各グループのプレゼン
- 14:30 各グループの発表と企画練り直し
- 15:30 今後の取り組みについて

3日間のセッション終了



# 研修第3日目（2月12日日曜日）



協力 水産高校の生徒  
お店(市内の魚料理店や魚市場)

プロジェクト名	おうちで石見の魚を食べたくなる!!
目的 (課題設定)	石見の海のめぐみに気づく → 石見の魚の地元消費を高める → ③ 家庭で石見の魚が出ている環境をつくる。

回数	各回のテーマ	各回の目標	各回の概要
第1回	石見の魚と 食べよう!!	石見の魚のおいしさに気づく 魚の調理方法を学ぶ	魚市場でお買物 みなで調理して食べる 次回調査に行く場所を考える
第2回	石見の魚と 調査しよう!!	石見とある魚種や 食べ方を知る	グループごとに調べに行く (スーパー、アヲス、おすけ、給食...) 発表する(表作り)
第3回	石見の魚の レシピを考えよう!!	石見の魚の特色を 活かした調理方法を 考える	レシピ作り おもしろい仕方を考える
第4回	子ども料理長の 石見のお魚食堂	家庭で石見の魚が 出ている環境をつくる	調理する 親におもてなし ふり返し
第5回			
第6回		流通に目を向ける	
第7回		石見の魚と 食べやすい環境を つくる(流通)	

# 研修第3日目（2月12日曜日）

- 10:00 石見の海に関する学習プログラムを作ろう  
(プロジェクトデザイン)  
各グループのプレゼン
- 14:30 各グループの発表と企画練り直し
- 15:30 今後の取り組みについて

3日間のセッション終了

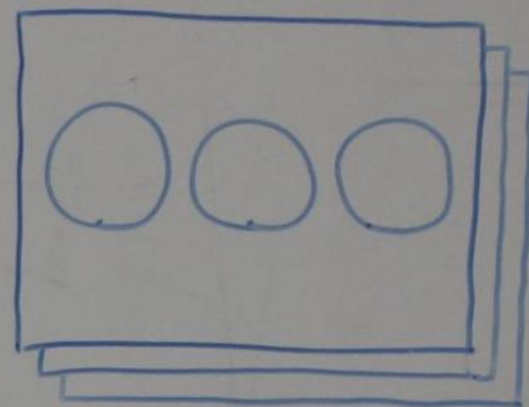


🌸 3日間の  
ふっか感・学びが残り

研修を通じての  
学び・発見・気づき  
etc.

ESDの  
実践に向けて  
あなたの課題は？

今後  
どんなことから  
取組みますか？



# これから

せっかくデザインしたプロジェクト、プログラムだけでも実践したい！

つながった人たちと、つながり続けたい！

どうしたら実践につなげられるか、みんなで相談しよう

所属先の事情、家庭の事情などもクリアして続けていける方法も含め  
みんなの持っているアイテムを持ち寄って考えよう





# 研修会準備

- 平成28年 7月 ヒアリング①
- 8月 ヒアリング②
- 9月 実行委員会①
- 10月 ワーキンググループミーティング①
- 11月 しまね組ミーティング①
- ワーキンググループミーティング②
- 12月 ワーキンググループミーティング③
- 平成29年 1月 ワーキンググループミーティング④（研修会事前打ち合わせ）
- 研修会1日目
- 研修会2日目
- しまね組ミーティング②
- 2月 ワーキンググループミーティング⑤（研修会事前打ち合わせ）
- 研修会3日目
- 実行委員会②

# 本研修会の企画から実施の中での学び

- 研修会企画の場じたいが学びの場となった  
「ESD」についてわずかながら理解できた  
参加者に寄り添う丁寧な研修会のデザイン
- 企画に地元のメンバーが入り、自分事として関わった

# 拠点施設としてのこれから

- 周囲にどうアピールするか、多様な人々をどう取り込んでいくか
- 今回形成されたネットワークが、どれだけ自主的に動いていくか
- 関わった人が次どう支援に回れるか（来年度以降のデザイン）
- 事業にとどまらず、展示などにもESDの視点が入ってくれば